

なかたい 中平遺跡 現地公開資料

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
令和4年11月3日

はじめに

中平遺跡は九戸郡野田村大字野田第22地割138番地1に所在する遺跡です。

本調査は野田小学校建設事業に伴って行われた記録保存を目的とする緊急発掘調査で、昨年度に引き続き4月から着手してきました。調査区は県指定史跡「野田竪穴住居跡群」(昭和29年)の北東側に位置しています。

遺跡は北東方向に延びる標高約40～50mの丘陵上に立地しています。調査区内の地形は尾根の頂部、そこから南東側を下る斜面です。これらの地形は当時の人々の生活を反映していることが分かりましたので紹介していきます。

見つかったもの

縄文時代早～前期 (約6,000年前後のムラ)

尾根の頂部から斜面にかけて竪穴住居が建てられていました。隅の丸い長方形の形をしたものが見つっています。

竪穴住居7棟 陥し穴2基
石鏃6点、石匙1点



縄文時代中～後期 (約4,000年前の狩り場)

頂部から斜面にかけて狩り場として利用されてきました。両端が丸くて、細長い形をしています。

陥し穴31基



平安時代 (約1,100年前のムラ)

尾根の頂部から斜面にかけて竪穴住居や工房が建てられていました。土器の特徴や炭の年代から9世紀後半から10世紀初めにかけて作られたと考えられそうです。

竪穴住居44棟 掘立柱建物1棟
土坑30基
土師器・坏・甕、須恵器・甕、灰釉陶器
鉄製品、鉄滓、土製品、琥珀など



平安時代のムラで見つかった成果

- 大きな住居：1辺が6～7mのものが複数棟ありました。7mの住居は、野田村の中で最も大きなものとなりそうです(ウラ写真①)。
- 特徴的なカマドの煙道：家の外に煙を出す仕組みは、土をくり抜いて作る以外に、石を組んでトンネルを作る住居が複数ありました(写真②)。
- 多数の炉跡：住居の床面からは炉跡が見つっています(写真③)。



- 珍しいもの：住居からは、土器の他に様々なものが見つっています。
石帯：官人などが身につける腰帯を飾る「巡方」と呼ばれるアクセサリーです(写真④)。
緑色の石で作られています。

灰釉陶器：9世紀後半に作られた東海産の陶器です(写真⑤)。

土製支脚：カマドの内部で甕などの底を支えるためのものです(写真⑥)。

石帯と灰釉陶器は野田村周辺で初めての出土例となることから、貴重な資料となりそうです。



わかったこと

今回の調査からは、縄文時代から平安時代における人々の生活の痕跡を見つけることができました。各時代の成果は以下のとおりです。

縄文時代早～前期

見つかった竪穴住居の棟数からは、遺跡が居住地として何度か利用されていることが分かりました。これらの住居は主に前期に作られたと考えられますが、土の特徴や埋まり方から早期に遡る可能性がある住居もありそうです。

縄文時代中～後期

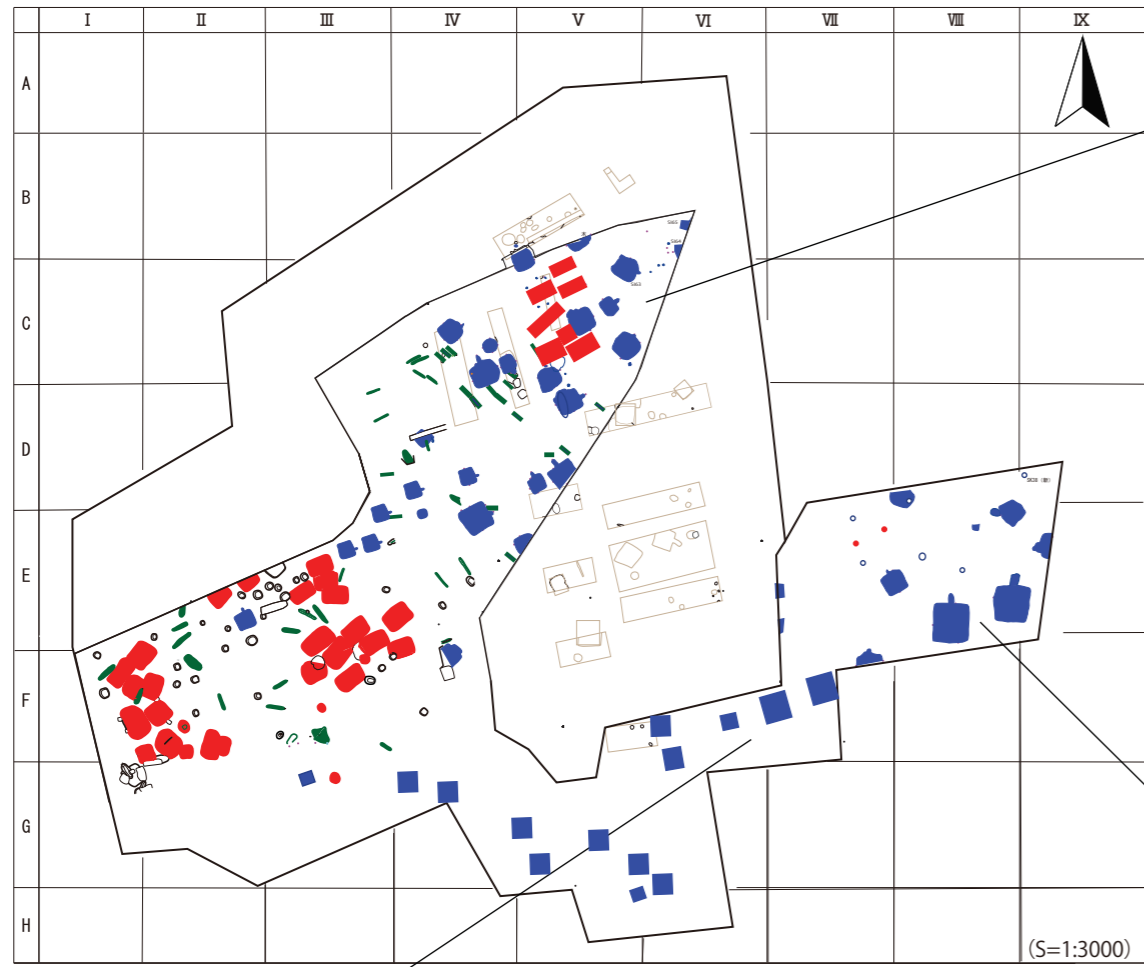
この時期には、狩り場として利用されていることが分かりました。この丘陵だけでなく周辺にも多くの陥し穴が見つっていることから、その活動範囲は広範囲に及んでいたようです。

平安時代

尾根の頂部から斜面で見つかった住居は、9世紀後半に作られていたことが分かりました。この集落では、鉄製品に関連する工房を中心に構成されていた可能性が高いものと思われます。

今後の整理を通じて、遺跡の理解を深めていきたいと思えます。

中平遺跡 遺構配置図



- 縄文時代前期の竪穴住居と陥し穴
- 縄文時代中～後期の陥し穴
- 平安時代の竪穴住居

